

- 1 日 時 平成 24 年 7 月 11 日 (水) 第 5 校時 (13 : 40 ~ 14 : 30)
- 2 場 所 体育館
- 3 学級・学年 第 1 学年 2 組 33 名 (男子 16 名, 女子 17 名)
- 4 単 元 名 球技「ネット型 バレーボール」

5 単元について

単元観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした小学校での学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームが展開できるようにすることが求められる。

「ネット型」とは、コート上でネットをはさんで対峙し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。その中で、バレーボールは、2つのチームが空中のボールをはじき合いながらネットを隔てて攻防をくり返し、得点を競い合う集団的な運動種目である。

したがって、チーム内でお互いの特徴を生かしながらゲームまで発展させ、その過程の中でからだを動かす喜びとチームの協力によって、ラリーを続ける楽しさに大きな魅力があると考え。

生徒観

小学校では、31%の生徒がソフトバレーボールを学習しているが、バレーボールは経験しておらず、ほとんどの生徒が基本的技能やルールを初めて学習することとなる。ボールを静止させずに、動きの瞬間を捕らえてプレイを加えなくてはならないところにネット型バレーボールの難しさがある。勢いのあるボール、ゆっくり落ちてくるボールなどいろいろなボールのスピードに打つタイミングをつかめず、ボールを思ったとおりにコントロールすることができないと、67%の生徒が感じている。

その中で、練習を積み重ね、パスやサービスなどの基本的技能が少しずつ上達していくことで、興味・関心が高まり、意欲的に学習に取り組んでいる。また、97%の生徒が、バレーボールの学習が楽しいと感じている。反面、体力的にも技術的にも個人差が大きいという課題があり、ゲームでは技能の高い生徒が中心となってボールを打ち、苦手な生徒は失敗を重ねたり、ボールに触れることを避けてしまったりする傾向にあり、ゲームの楽しさや喜びを味わっていない生徒もいる。

バレーボールに必要な要素である敏しょう性は全国平均並みであるが、瞬発力は全学年において全国平均を3~10ポイント下回っている。

指導観

指導に当たっては、授業始めに主運動に必要な敏しょう性や瞬発力を高める運動を行うことにより、スムーズな学習展開につなげていきたい。また、生徒一人一人が勝敗を競い合う過程や結果等ゲームの楽しさや喜びを味わえるように、チーム全体の雰囲気や互いの技能が高まるような声かけを考えさせ、実行させていきたい。

また、フォーメーションを工夫させることにより、自分たちの技能やチームの特徴を生かした作戦に結びつけさせたい。初期の段階では、ゲームを楽しむことを可能にする技能を、ゲームを楽しみながら体験的に身に付けていけるようにしていく必要があると考え、そのための初期段階

としてソフトバレーボールを取り入れることにより，習得したパスやサービス，レシーブなどの基礎的技能が発揮しやすくなり，ラリーを続ける楽しさや喜びを味わいやすくなると考える。また，個人やチームで攻防の仕方を工夫させることで，攻防の作戦に適した集団的技能，個人的技能を活用できるようにする必要があると考える。

さらには，ゲーム記録から，自分たちのゲームを振り返らせることにより，良かった点や課題を明らかにし，その課題解決に向けての練習方法や作戦を工夫させたい。そのため，チーム内で根拠を基に話し合ったことを，筋道を立てて表現することで，チーム内だけでなく，学級全体がバレーボールに対する学習課題への取り組み方を工夫することができるようにしていきたい。

6 単元の目標

次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，基本的な技能や仲間との連携した動きでゲームが展開できるようにする。

- ・ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。（運動の技能）

球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。（運動への関心・意欲・態度）

球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにするようにする。（運動についての知識，思考・判断）

7 単元の評価規準（・：第1学年，　：第2学年の評価規準。技能は1・2年共通。）

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを守ろうとしている。 分担した役割を果たそうとしている。 ・作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身につけるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ・自己やチームの課題を見付けている。 ・提供された練習方法から自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空いた場所をめぐる攻防を展開するためのボール操作（パス，サービス，レシーブなど）と定位置に戻るなどの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性や成り立ちについて，学習した具体例を挙げている。 ・技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 バレーボールに関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。 試合の行い方について，学習した具体例を挙げている。

8 単元の学習指導計画（全10時間）

次	学 習 活 動 (時数)	評 価				評価基準	評価方法	言語活動
		関	思	技	知			
一	・単元の目標や学習の進め方，バレーボールの特性や技術，用具の準備・片付けやルール，安全面について理解する。 (1)					・バレーボールの特性や成り立ちについて，学習した具体例を挙げている。 ・健康・安全に留意している。	学習カード 行動観察	
二	・パス，サービス，レシーブなどの基本的な技術を身に付ける。 (2)					・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。	行動観察 学習カード	・仲間へのアドバイス ・チーム内の声かけ
						・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。	行動観察	
	・ローテーションをしてのワンバウンドゲームを行う。 (1)					・プレイを開始するときは，各ポジションごとの定位置に戻っている。	行動観察	
二	・ソフトバレーボールを使用して，声かけとラリーを続けることを重視してゲームを行い，課題を見付ける。 (3…本時3/3)					・作戦などについての話し合いに参加しようとしている。	行動観察	・チーム内の声かけ話し合い活動・発表 ・仲間へのアドバイス
						・相手の打球に備えた準備態勢を取ることができる。	行動観察	
	・自己やチームの課題解決に向けた練習を行う。 (1)					・自己やチームの課題を見付けている。	ゲーム記録表・発表	
三	・空いた場所をめぐる攻防を中心に，ラリーを続けることを重視して，ゲームを楽しむ。 (2)					・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身につけるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ・フェアなプレイを守ろうとしている。	行動観察 行動観察	・チーム内の声かけ
						・相手側のコートの中を空いた場所にボールを返すことができる。	ゲーム記録表 行動観察	

9 本時の展開

(1) 本時の目標

・ゲームを振り返り，チームの課題を見付ける。

(2) 観点別評価規準

・チームの課題を見付けている。(運動についての思考・判断)

(3) 準備物

タイマー，提示装置，ゲームベスト，作戦ボード，ゲーム記録表，筆記用具

(4) 学習の展開

過程(分)	学 習 活 動	指導上の留意点 努力を要すると判断する生徒への手立て	評価方法	評価規準
導入 (10)	1 点呼，挨拶をする。 2 ウォーミングアップを行う。 準備運動 バレーボールに関連した動き オーバーハンドパス アンダーハンドパス	・体をほぐし，主運動に関連する体力要素の補強運動を行うとともに，バレーボールの基本的技能の習得につなげる。		
展開 (37)	3 本時の目標を確認する。	・全ての生徒が理解できるよう，掲示資料で示す。		
	ゲームを通して，チームの課題を見付けよう！			
	4 ラリーを続けることを重視して，試しのゲームを行う。 チームごとに手立ての確認 2チームがゲーム 他チームが審判・記録 (4分間×3ゲーム)	・ラリーを続けるための手立てについて確認し，ゲームで実践させる。 【予想される手立ての例】 ・味方が操作しやすいようなレシーブを心がける。 ・レシーブ トス スパイクと三回で返球する。		
	5 チームの課題を見付ける。 各自でチームの課題を見付ける。 全員が意見を出し合いチームでまとめる。 チームの課題を発表する。	・ゲーム記録を基に，チームで話し合い，記録表に記入させる。 【予想されるチーム課題と改善策の例】 ・一部の人しかボールに触れていない。フォーメーションの工夫が必要だ。 ・トス・パスにつながっていない。レシーブのミスを少なくしていかなければならない。 具体的な課題や改善策が見い出せていないチームには，成功例と失敗例の違いや，技のコツや動きのポイントに着目するなどヒントを与える。 ・ゲーム記録の結果を指し示しながら，根拠を基にわかりやすく説明するよう助言する。 【予想される説明の例】 ・記号の数が特定の人に偏っている。自分のエリアには責任を持ち，もっと積極的にボールに向かっ ていこう。 ・レシーブミスが多く，トス・パスに記号が少ない。 レシーブを正確にセッターに返すことを心がけ， 周りはカバーの準備をしよう。	ゲーム記録を根拠に，チームの課題を見付けている。	ゲーム記録表・発表
言葉活動の充実				
まとめ (3)	6 整理運動を行う。 7 次時の予告を行う。	・自己やチームの課題解決に向けた練習を行うことを確認する。		